

神奈川県二宮町栗谷における 鍵層‘二枚組スコリア’について

武藤朝子・山口寿之

A Key Tephra ‘Nimaigumi scoria’
in Kuriya, Ninomiya

Asako MUTO・Toshiyuki YAMAGUCHI

‘二枚組スコリア’は更新統二宮層群下田下部層（層序表参照）の鍵層の一つである。二宮層群の研究は、大塚（1929）以後数多くあるが、1975年以来第四紀研究会は、火山灰編年学の立場から、火山灰層（テフラ）を中心とした層序と地質図を示した（上杉ら，1979）。筆者らは、その成果を基礎に同時期面の指標となる鍵層を追跡し、岩相や含まれる化石の時間的・空間的分布の研究を行なっている。

二宮町栗谷の小田原厚木道路わきの露頭でみられる *Glycymeris rotunda*（ベニグリ）を主とする貝化石層は、従来莫然と『‘イリドーフ’（テフラ）の上位17～18 mの層位に相当』するとされていた（森ら，1979）。今回それは‘二枚組スコリア’層準であることを確認したのでここに報告する。

‘二枚組スコリア’は二枚のスコリア層からなり、大磯丘陵東部の虫窪、国府本郷、高根などに見られる（図1）。このテフラは、径10～30mmの粗粒スコリアで、両輝石英はんれい岩片を含むことが特徴である。

ここに示す‘二枚組スコリア’は小田原厚木道路わきの露頭で観察された（位置：図1，柱状図：図2）。対比可能なテフラは下位から次の4枚である。A：下部8～10mmに黒色細粒スコリア（径1mm以下）の薄層をもつ厚さ3～5cmのラビリ。B：径5～10mmの灰色ラビリと黄色スコリアで、岩片を含む。C：径10～30mmの黒色スコリアで、岩片を含む。D：厚さ約15cmのスコリアバミス（径1～8mm）。以上のテフラは大磯丘陵東方にみられる‘二枚組スコリア’上下のそれに対比される。すなわち前記貝化石層は‘イリドーフ’の上位層準でなく、‘二枚組スコリア’直下の層準となる。この層準は貝類のほか、有孔虫などの化石を豊富に含み、また‘二枚組スコリア’が大船付近の長沼層の‘タヤスコ’に対比される（上杉ら，1979）ことから、当時の古環境解析に重要な情報を与えるものと思われる。

文 献

- 森 慎一・長田敏明 1979 二宮層群の化石群集について。二宮層群産軟体動物化石目録。平塚市博物館資料，19：1-73。
- 大塚弥之助 1929 大磯地塊を中心とする地域の層序について（其一）。地質雑，36（433）：435-456。
- 上杉 陽・森 慎一・磯 望・長崎 正・春川光男 1979 テフラを中心にみた二宮層群。関東の四紀，6：12-23。

（千葉大学理学部地学）

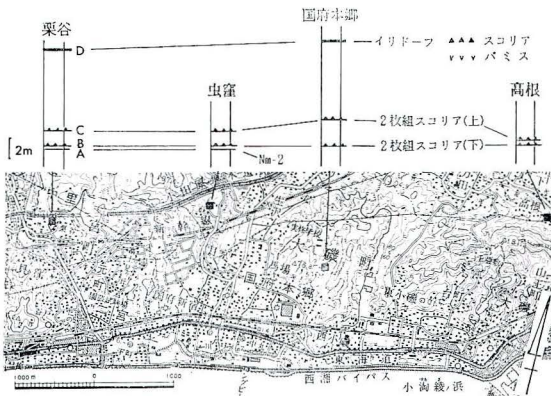


図1. 露頭位置（5万分の1地形図：小田原・平塚）

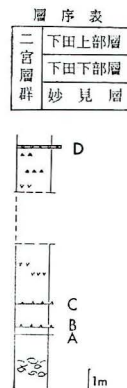


図2. 露頭柱状図（二宮町栗谷）